

シマトネリコ (モクセイ科 トネリコ属 常緑小高木)



出典：庭木図鑑 植木ペディア

寒さ：やや弱い(氷点下3度以上) 暑さ：強い
樹高：6m～15m 花色：白 開花時期：5～6月 用途：庭木、鉢植え

語源

「トネリコ」は、「戸に塗る木」が語源。トネリコの樹皮につくイボタロウムシの分泌する蠟物質を、昔、敷居などの溝に塗って、戸のすべりを良くしたことから、こう名づけられました。「シマトネリコ」は「沖縄などの島に自生するトネリコ」ということです。

シマトネリコの特徴

シマトネリコは高さ15m近くになる暖かい所に生息する樹木です。6月から7月頃に小さな白い花を咲かせ、花後は長い鞘のような白い実が成り、遠くから見ると花が咲いているように見えます。

シマトネリコの育て方

日当たりを好みますが、半日陰でも十分育ちます。水もち・水はけのよい場所に植え、強く乾燥させないようにします。特に鉢植えでは気をつけます。暑さや湿気には強く夏場の管理が楽なのはうれしいところ。風通しを良くすると枝がなびくのが美しいうえに、病害虫の予防にもなります。

植え付け

植える所の水はけが悪い場合は腐葉土を、元肥に牛糞などを混ぜて植え付けます。強風で傾むいてしまわないよう、根着くまでは木などで支えておくとよいです。鉢植えの場合、鉢の大きさは、生育が結構早いので、少し大き目でよいと思います。用土は市販されている観葉植物専用の培養土を使ったり、自分で作る場合は、赤玉土(小粒)6、腐葉土4ぐらいでよいです。

水やり

庭では植え付け後しばらくは乾かし過ぎないように注意しますが、根付けばよほど乾かない限り、特に与える必要はありません。鉢植えでは生育期の春から秋は表面が乾いたらたっぷりと与えます。夏は葉が多くよく水を吸い上げるので、水切れさせないように注意します。冬はほとんど生育しないので、鉢土の表面が白く乾いて更に2、3日後に与えるぐらいと控えめにします。冬は空気が乾燥するので、暖かい時間帯に葉水を与えると葉が落ちるのを予防する効果があります。